

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人介護事業部の理念及び事業所の理念に沿った、サービス目標を今年度職員で決め、サービスの実施を行っている。	事業所独自の理念が作成されている。今年度は事業所理念に沿った「サービス目標」を全職員で話し合い作成した。理念と共に掲示し定期的に全員で唱和及び実践状況の振り返りを行ない、常に立ち戻る根本的な考え方として大切にしている。また、目標に基づき利用者の出来る事、やりたい事を介護計画に反映させ、個別ケアサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加以外に、事業所の行事に地域の方を招いて開催するなど、交流を図るよう努めている。	自治会に加入しており、回覧板を通じて地域情報を入力し参加したり、事業所便りを回覧してホーム行事への参加を呼び掛けたり情報発信してホームをより理解してもらおう努めている。事業所便りを見て干し柿用の柿を提供を申し出てくれた方がいたり、ホーム行事に参加してくれる方が出てくるなど、交流の幅が広がってきている。また、日頃から近隣を散歩して農作業中の方々と挨拶を交わしたりして交流し、野菜を差し入れてもらえる間柄となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様が施設でどのように生活しているのか、どのような事を行っているのかなどをお便りや行事参加時知って頂き、普通に暮らしている姿や楽しんで生活している姿を見て頂いたり、感じて頂くことも地域貢献と認識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度からは、よりオープンに事業所内の事を説明し、参加者の理解を深めている。運営の事やサービス向上の為の意見も多く頂け、その都度改善に努めている。	2ヶ月に1回、利用者代表・家族代表・区長・地域包括職員・知見者のメンバーで開催し、活動状況や取り組み状況などについて報告して意見交換している。今年度から、ホームの実情をより理解してもらえるよう報告内容をよりオープンにするなど工夫して会議を進めた結果、メンバーからより積極的に意見・アドバイスがもらえるようになった。また利用者紹介やパンフレット設置などの協力が得られるようになったり、利用者に適した外出先情報や畑に関するアドバイスが得られ利用者の満足度を上げることが出来たりするなど、サービス向上に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不定期だが、地域密着型事業所の会議が開催されており、その際町の担当者との意見交換を行なっている。他に直接伺いし担当者とは話をする機会を作っている。	阿賀町の担当者とは、日頃から何かあれば電話連絡したり出向いて相談している。また、町職員も参加する地域密着型事業所の会議や町主催の研修会に参加し、その場で町の担当者へ事業所の現状を伝えたり、意見交換を行ない、協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っていない。職員も行動制限や身体拘束等に関して法人内研修や職員会議で話し合い、理解した上で業務に当たっている。現状において身体拘束等は行っていない。	法人研修への参加のほか、ホームの内部研修を行い、職員は身体拘束をしないケアへの理解を深めている。また、職員会議等でグレーゾーンも含め拘束に当たる行為がどのような事を皆で話し合い、理解した上で業務に当たり、拘束行為が発生しないよう取り組んでいる。利用者一人ひとりの外出のくせや傾向を把握し、出そうな場合は抑制せず落ち着くのを待つなど、適切な対応を行なっている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や職員会議で話し合い、理解を深めている。職員の住む近所や地域でも虐待がないか、あった場合は連絡や報告するように協力をお願いしている。	身体拘束と同様に、研修等で虐待にあたる行為の具体例などを学び、虐待防止について周知徹底されている。言葉による虐待にも注意を払い、日頃から職員間で互いに確認している。また、管理者は職員のストレスにも配慮し積極的に話しかけこまめに話を聴くようにするなどして、職員のストレス軽減に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について今年度は外部研修に職員が参加し、施設での伝達研修等を行い職員が勉強する機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書などを用いてご本人、家族が納得、理解して頂けるよう十分に説明を行い契約の締結を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口に関して玄関等に提示している。家族等が意見を表しやすいように玄関入口に意見箱を設置している。ご利用者の意見が表れやすいよう運営推進会議の出席をお願いしている。	利用者には、日々の関わりのなかで意見・要望の把握に努めているほか、運営推進会議に順番で出席してもらい、要望等を伺っている。家族には、面会等で来訪した際や電話連絡時に積極的に問いかけたり、時には訪問してお話を伺い、意見・要望等を引き出せるよう努めている。把握した情報は記録し、職員会議等で検討のうえ運営に反映させている。	家族から意見を募る機会が面会時や電話時など、直接的な場面に限られている。家族は、意見や要望、不満を言い出し難いということを理解し、無記名式アンケートを実施するなど、より気軽に意見・不満・要望等を表せる機会作りが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行っており、職員からの意見を聞いて課題検討を行なっている。会議以外でも管理者にいつでも話せるような関係性の構築にも努めており、ホームの運営に反映している。	毎月1回、職員全員が集まり、職員会議を行っている。職員が気づいたこと、改善が必要と思われることに関して意見や提案を表明している。また、管理者は日頃から相談や意見・提案などがしやすい環境づくりに配慮しており、職員も話しやすさを感じていて何かあればすぐに相談や意見等を上げている。出された意見には助言等ですぐに対応するよう努めている。代表者へは法人の管理者会議やエリア長会議などを通じて伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、職員1人ひとりの面談を行っている。目標設定や達成確認を通じて向上心を持って働きやすい環境整備を行なっている。面談での意見や要望は管理者が法人に報告できるよう毎月の法人の会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修、法人内の部会に参加してもらい、職員が自発的に自らの向上に努められるようサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域福祉の連絡協議会に参加しており、他事業所等との交流会や研修会にてサービスの振り返りや改善、質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居にあたり、不安に思っている事や心配な事などを十分に傾聴し、安心、納得してもらえるまで何度も説明するよう心掛けている。また、家族との繋がりや継続に向けて働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時及び入居後も、グループホームでの生活などの不安や要望はできる限りお聞きし、安心して頂けるよう説明を行っている。施設での生活の様子なども定期的に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご本人様、ご家族様への利用説明において、状況等の確認、把握をしながら必要に応じてサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという認識を共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて入居者様の知識や経験を学ばせて頂いている。入居者様同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者様の生活の様子などをお便りや写真を送り報告している。近隣の家族の方には、月に1度の面会をお願いし関わりを絶やさないように心掛けている。	個別の手紙や写真、事業所便りを定期的に家族へ送り生活状況を伝えたり、電話連絡を通して家族への情報提供を積極的に行ないながら情報共有し、協力関係の構築に努めている。家族にホームへ足を運んでもらえる機会が増えるよう様々な工夫を行なっているほか、来所時にはできるだけゆっくりして頂けるよう促したり、一緒に外出するよう働きかけたりし、利用者と家族が共に過ごす時間が多く持てるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方には、また来て頂けるようお願いしている。馴染みの場所などは、ご家族にお願いして連れて行って頂くか、職員と一緒に出勤できるよう配慮している。	入居時に本人や家族からこれまでの人間関係や馴染みの場所などについてくわしく聞き取り、把握している。把握した情報は記録して共有し、具体的な支援につなげている。電話の手助け、馴染みの美容院や店の利用支援、馴染みの場所へのドライブなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、食事の座席等の配置や入居者様全員でできる作業などをすすめるなど、様々な働きかけや配慮を行なっている。入居者同士が助け合い、支え合いながら日々の生活を送っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用や契約が終了しても関係を断ち切らず、現在の状況を聞いたり又、直接家族や本人にお会いするなど継続的な付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望などは出来るだけ実現できるよう配慮している。ご本人様の思いやご家族様の思いを聴き、ケアプランや個別サービスに反映している。	話すのが好きな方が多く、日々の会話の中から思いや希望を引き出している。意思の疎通が難しい方は、家族など関係者から聴くようにしている。把握した情報はケース記録・申し送りノートに記録して共有し、食べたいものや行きたい所・ホームでの役割など一人ひとりの思いを介護計画に反映し実現できるよう支援している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をご本人、又はご家族に聞き把握に努めている。今年度センター方式は活用していないが、以前までの方はセンター方式でのアセスメントにて把握に努めている。	入居前に自宅や利用中の施設を訪問し生活環境や過ごし方を把握するとともに、本人・家族から生活歴や馴染み等について詳細に聞き取りを行い、把握している。サービス利用の経過等についても前の介護支援専門員や介護施設などから情報収集している。入居後も把握に努め、得た情報は記録し共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人及びご家族に聴き、1人ひとりの過ごし方、心身の状態、有する能力等の現状を把握して、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンス、ご家族等との話し合いを行い、課題検討やケアの方向性を話し合い、日々の関わりの中での意見や意向を介護計画に反映させている。	居室担当職員が「ケアプラン状況評価表」を用いて毎月モニタリングを行ない、計画作成担当者がチェックしている。変化時や本人・家族の新たな希望があれば職員会議でカンファレンスを行ない、職員の意見・提案を反映させながら介護計画の見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践と結果、気づきや工夫を個別の記録に記入している。情報を共有しながら実践したり、介護計画、個別ケアサービスの見直し、変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々要望に応じて、併設短期入所生活介護施設や地域資源等の活用に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等に協力を求めたり、相談するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族が希望するかかりつけ医としている。本人と家族の絆維持の観点から家族同行での受診を基本としているが、不可能な場合は職員が代行している。阿賀町が医療機関と介護機関との情報共有・連携を目的として推進している「健康ファイル」を活用し、かかりつけ医と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診状況は家族に毎月手紙で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員に入居者の体調の変化があるときなど、情報提供を行い相談しながら医療支援を進めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際はできるだけ早期に退院できるように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。入院、退院のために病院と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院等で体調の変化があった場合にはその都度状態の確認をしながら支援している。ご本人、ご家族の思いに近づけるように、グループホームで行えることについては定期的に職員間で話し合いを行っている。その都度本人、家族に説明しながら支援している。	契約時に、重度化した場合や終末期の意向を本人・家族に確認し、事業所が対応し得る最大のケアについて医療面での限界も含めて説明したうえで話し合い、意向を尊重した支援につながるよう取り組んでいる。今年度はホームで行なえることについて全職員で話し合いを行ない、方向性を決定し、家族に改めて説明した。また、状態に変化があればその都度、家族や主治医、ソーシャルワーカーなど関係者と話し合い方針を統一し、安心が得られるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡方法など、事業所内で研修を行い冷静に対応できるように勉強している。	研修で学んでいる。また事例を挙げて、どのような原因が考えられ、何を観察し、どのように対応すればいいのか話し合い急変や事故発生時に備えている。今後は併設施設の看護師の協力を得て、疾患別の観察ポイントや対応についてマニュアル化していきたいと考えている。	急変時落ち着いて対応できるよう、救命救急法の訓練が定期的実施されることに期待したい。またマニュアルを整備し学ぶことで、異常を早期発見し適切な医療につなげられることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定で併設施設との合同訓練や事業所単独訓練等、安全に避難できるように訓練を年2回は実施している。災害時、地域の方の協力を区長様をお願いしている。また、町内の法人関係で災害時の協力体制について話し合いを行っている。	年2回、日中想定で避難訓練を実施している。うち1回は併設施設と合同で実施し、連携体制の確認も併せて行っている。自然災害等で職員が出勤困難となるケースを想定した対応の検討も行った。地域との協力体制については、自治会の区長や隣家の方に非常時の協力依頼がしてある。また、阿賀町内の他法人施設との連絡協議会で災害時の協力体制について協議した。	近年、夜間を想定した避難訓練が実施されていない。夜間は職員も少なく、避難誘導がより困難であることから、具体的な避難策を検討して訓練を行ない、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう備えていくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前年度に引き続き法人内で接遇、傾聴に力を入れ実施。参加職員による伝達研修を行い、職員全員が心掛けながら実施している。	接遇トレーナーが中心となり接遇マナー研修を定期的実施したり職員に直接指導し、全職員に適切な言葉かけや対応が周知されている。職員は利用者に敬意をもって接し、不快感を与えないような言葉かけや対応に努めている。プライバシー確保にも配慮し、記録類は適切に保管し、また利用者の目に触れない場所で記録している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解、納得できるよう何度も説明を行っている。自己決定をして納得しながら暮らせるよう本人の意思、思い、希望などを確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、時間などに囚われず、ご本人がやりたいように自由にやって頂いたり、ご本人の意思や希望を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望、意向により美容室に行ったり、訪問理容の方に来て頂いている。日常の衣類もご本人がタンスやクローゼットから好きな物を選んで頂いている。入浴時も本人を選んで頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理の準備など職員と一緒に作業をすすめており、個々の能力の維持になっている。食べたい物や好き嫌い、食後においしかったかを聞いたり、買い物の際に食べたい物を買ってきたり食事を楽しくめるように努めている。	利用者の好みやホームで栽培した野菜、近隣で採取した山菜など旬の物を取り入れながら、手作りの美味しい食事を提供している。利用者は個々の力に合わせ買い物や調理など一連の作業を職員と共に行ない、役割を持ちながら張り合いを持って仕事を楽しんでいる。また、仕出し弁当を取ったり、職員が鱈を目の前で捌いて刺身を提供したり、外食やおやつ・漬物作りなど楽しむ工夫を行ない、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に相談しながらご利用者の状態に応じた食事内容や食事形態、栄養バランス、季節の物や塩分など検討しながら食事の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きの声掛けを行っている。居室でやる方、ホール内の洗面台でやる方など個々に合わせて実施している。歯磨きが不十分な方には介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンはおおよそ把握しているので、できるだけ自力で排泄して頂けるよう早めに声を掛けたり、定時トイレ誘導など1人ひとりに合わせて支援している。	排泄チェック表でパターンを把握し、適切なタイミングでトイレ誘導し、また介助も必要最低限に留め、できるだけ自力で排泄し続けられるよう支援している。安易に紙パンツや高齢者用パットを使用することは、蒸れによる不快感やごわごわして歩きにくいなどの弊害に繋がるため、なるべく布パンツや小さい尿とりパットを使用するなど本人に合わせ、快適に過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、食物繊維の多い食材や乳製品などの摂取、体操等に取り組んでいる。個人差はあるが排泄リズムは整っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間などの設定はされているが、入居者様の希望時間や希望日など、できるだけ入居者様に合わせて入浴の提供を行い、お風呂を楽しんで頂けるようにしている。	基本的な入浴日、時間帯を設定しているが、希望があれば柔軟に対応している。湯温や入浴時間は健康に配慮しつつ出来るだけ希望に沿うよう対応している。拒否する方には無理強いはないが清潔保持の観点から、タイミングを見計らったり声掛けを工夫して入浴を促している。しょうぶ湯や柚子湯・入浴剤を日替わりにするなど楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その時の状況や体調、習慣などで休みたい時には好きな時間に自由に休息できるよう環境の整備、又は支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員間で情報を共有して服薬管理、支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や能力、力を活かして調理の準備やお茶入れ、配膳、掃除など担当してやって頂いている。レクリエーションやドライブなどの外出などで気分転換して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物などの希望があれば、その都度職員と一緒にいる。行きたい所や行ってみたい所など、出来るだけ外出できるように努めている。	日頃から天候が良ければ近隣を散歩したり、畑作業やホーム周りの清掃を行ったりしている。食材の買い出しに毎日出かけており、利用者も交代で一緒に行っている。近場のドライブにも希望を取り入れて気軽に出かけている。また、普段行けないような場所には、希望や季節感を取り入れつつ職員が利用者に喜んでもらえる場所やいままで行ったことの無い場所、新体験として良い刺激を受けられるような場所を考えて選定して出掛け、利用者に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、能力、ご家族の同意の下、お金の所持や使えるよう支援している。その他は預かり金として施設側が管理して必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族、親戚等に電話を希望された場合は本人に電話を掛けて頂くか、職員が電話を掛け、つながったら本人に替わりお話しをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、テーブルの上、壁面などには季節に応じて装飾を変えている。行事の時に写した写真やレクリエーションで作成した作品などもホール内に貼っている。植木も時期によってはホール内に置き、水やりをして頂いたり、植物に触れることにより気分転換できるよう支援している。	季節が感じられるよう装飾を工夫している。台所を挟んで食堂とリビングが分かれており、普段過ごすリビングにはテレビやソファを置き、カーペットの上で洗濯物を畳んだり、足を伸ばしたりできる。食事の時は食堂に移動するためメリハリがつき、自然と生活リハビリのできる環境である。利用者作品や外出時の写真を多数掲示して生活感を出し、植物を栽培し猫や金魚を飼うなど癒される空間となっている。朝夕にはアロマセラピーを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング(食堂)、リビングの他に、視覚的に個別空間となりうるよう区分した場所を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族と相談をして居室内の飾りつけやタンスなどの配置を行っている。ご自宅から使い慣れた物や思い出の物も持ってきて頂き、本人が落ち着け、居心地のいい生活環境になっている。	洗面所・ベット・テレビ・クローゼットが備えつけられている。ベットやタンスの配置は本人・家族とよく相談して決め、使いやすくなるよう配慮している。配置換え等の希望にもこまめに対応している。タンスや仏壇など馴染みのものを持ち込んでもらったり、写真や花など好みのものを飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは分かりやすく工夫しており、居室なども能力に応じて装飾品などで目印をつけ自立した生活を送れるようにしている。また、定期的に入居者に確認しその都度改善している。		



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				